

* コメントは、原則として 2022 年度のデータに関するものであるが、前号文学研究科『年報 2022』に掲載されたそれ以前のデータも、参考のため提示しておいた。なお数値は原則として各年度 5 月 1 日のものである。

教育活動の基礎的データ

1. 大学院の教育活動

1-1. 大学院博士前期入学者

博士前期課程（定員 75 名）の入学者数は、2016 年度から 2018 年度は再び定員割れとなった。2019 年度には持ち直していたが、2020 年度には再び定員割れを起こし、2021 年度にはまた持ち直している。充足率が安定しているとはいえないが、ある程度の学生数は確保してきていると思われる。一方、2022 年度からは大学院改組に伴い、修士課程は廃止となる。この改組により、定員充足率の改善が期待されることである。近年の入試ではあきらかに外国人の志願者に依存する傾向が強まっている。内部進学をうながすとともに、意欲のある留学生および社会人にとっても魅力のあるサポート体制の充実をはかる。

表 1-1-1 大学院文学研究科(博士前期・修士課程)の入学者数

年度	一般	社会人	外国人	計
2016	43・9	2・1	23・1	68・11
2017	51・8	2・1	11・6	64・15
2018	37・12	1・1	19・2	57・15
2019	60・6	7・2	21・3	88・11
2020	49・14	3・2	18・1	70・17
2021	51・8	3・2	24・3	78・13

2022 年からは大学院改組にともない定員管理は、各専攻でおこなうこととなった。博士前期について、人文学専攻は、定員 47 名・入学者 31 名・定員充足率 66%、日本学専攻基盤日本学コースは、定員 30 名・入学者 31 名・定員充足率 103%、芸術学専攻は、定員 17 名・入学者 24 名・定員充足率 141%。

大学院人文学研究科(博士前期)の入学者数

2022 年度	一般	社会人	外国人	計
人文学専攻	24	2	5	31
日本学専攻基盤日本学コース	22	2	7	31
芸術学専攻	15	4	5	24
合計	61	8	17	86

1-2. 大学院博士前期・修士課程学生

学生総数は、2016 年度は 200 名以上へと戻したものの、2017 年度から 2019 年度までは再び 200 名を切った。その後、2020 年度と 2021 年度は再び 200 名を超えている。休学者数と留年者数の合計の学生総数に対する割合は、2018 年度は、博士前期課程 21%、修士課程 29%、2019 年度は、博士前期課程 20%、修士課程 35%、2020 年度は、博士前期課程 14%、修士課程 44%、2021 年度は、博士前期課程 26%、修士課程 32%となっている。2022 年度の学生総数は、改組のため旧入試で入学した

人数となっている。休学者および留年者は、例年なみである。

表 1-1-2 大学院文学研究科(博士前期・修士課程)の学生数、休学者数、留年者数、修了者数

年度	学生数	休学者数	留年者数	修了者数
2016	170・32	18・4	20・5	71・10
2017	158・36	20・6	26・10	70・12
2018	142・37	9・4	22・7	64・15
2019	164・31	12・6	21・5	56・10
2020	170・38	10・7	14・10	61・10
2021	182・40	14・3	34・10	69・16

2022	108・22	17・6	27・7	77・11
------	--------	------	------	-------

大学院人文学研究科(博士前期)の学生数、休学者数、留年者数、修了者数

2022 年度	学生数	休学者数	留年者数	修了者数
人文学専攻	31	0	0	0
日本学専攻基盤日本学コース	31	3	0	0
芸術学専攻	24	1	0	0
合計	86	4	0	0

1-3. 大学院博士後期課程入学者

大学院博士後期課程の入学者（定員 41 名）は、定員を割り込んでいる。社会人の入学状況については、ここ 10 年ほどは 3 名前後で安定している。外国人入学者数は、5 名から 11 名の間で推移している。大学教員ポストが減少している昨今、博士後期課程を取り巻く状況は厳しく、今後も絶えず定員割れの危険性がある。本研究科だけの努力では如何ともしがたい部分があるが、これまで以上の努力が必要である。

表 1-1-3 大学院文学研究科(後期課程)の入学者数

年度	一般	社会人	外国人	計
2016	29	1	5	35
2017	24	4	8	36
2018	17	6	11	34
2019	24	3	9	36
2020	23	4	10	37
2021	17	2	7	26

2022 年からは大学院改組にともない定員管理は、各専攻でおこなうこととなった。博士後期について、人文学専攻は、定員 14 名・入学者 20 名・定員充足率 143%、日本学専攻基盤日本学コースは、定員 13 名・入学者 17 名・定員充足率 131%、芸術学専攻は、定員 7 名・入学者 8 名・定員充足率 114%。

大学院人文学研究科(後期課程)の入学者数

2022 年度	一般	社会人	外国人	計
人文学専攻	11	2	7	20
日本学専攻基盤日本学コース	9	2	6	17

芸術学専攻	5	1	2	8
合計	25	5	15	45

1-4. 大学院博士後期課程学生

博士後期課程学生数は、減少傾向が認められる。休学者数についてはやや減少傾向が認められるものの、退学者数は増加傾向にある。休学者数は、学生数に対して2020年度25%、2021年度23%と高めの水準で推移しており、退学者数は、学生数に対して2020年度18%、2021年度17%となっている。2020年度から2021年度にかけても、学生数の減少にともない、学位論文の提出数もまた低調である。2022年度の学生総数は、改組のため旧入試で入学した人数となっている。休学者が増加するとともに、学位論文提出者が気減少している。人文科学という研究分野の性格を考慮しながら、学生自身の研究能力の向上や教員の指導、研究環境の整備などの要因を探るとともに、課程修了後の身分・行き先の確保という深刻な問題をどのようにするのか、継続的に検討する必要がある。

表 1-1-4 大学院文学研究科(後期課程)の学生数、休学者数、学位論文提出者数、退学者数

年度	学生数	休学者数	学位論文提出者数*	退学者数
2016	198	56	29(10)	25
2017	186	49	34(14)	23
2018	176	33	23 (8)	25
2019	178	42	24 (6)	22
2020	180	46	22 (9)	33
2021	173	41	15 (3)	30

2022	141	64	11 (3)	30
------	-----	----	--------	----

(注)退学者には単位修得退学者をふくむ。*()内は単位修得退学者の論文提出数で内数。

大学院人文学研究科(後期課程)の学生数、休学者数、学位論文提出者数、退学者数

2022 年度	学生数	休学者数	学位論文提出者数*	退学者数
人文学専攻	20	1	0	0
日本学専攻基盤日本学コース	17	0	0	0
芸術学専攻	8	0	0	0
合計	45	1	0	0

1-5. 大学院研究生

かつては研究生のうちの大半が日本人であったが、日本人研究生の減少とともに留学生の比率が上昇し、年によっては日本人研究生を上回るようになり、近年は留学生の方が多いことが常態化している。2019 年度以降、研究生の数が減少しているが、コロナの影響などもあって留学生の数が減ったことに起因する。2022 年度の大学院研究生の数は大幅に増えたのはコロナが収束したことによる反動とみられる。そのうち留学生が大半を占める。

表 1-1-5 大学院研究生数

年度	日本人	留学生	計
2016	3	7	10
2017	3	7	10

2018	6	6	12
2019	2	2	4
2020	2	4	6
2021	1	4	5

大学院研究生数

2022 年度	日本人	留学生	計
人文学専攻	1	1	2
日本学専攻基盤日本学コース	2	6	8
芸術学専攻	0	5	5
合計	3	12	22

2. 学部の教育活動

2-1. 学部入学者

一般入試による入学者の数は、2017 年度は世界適塾 AO 入試が導入されるとともに後期日程が廃止され、一般入試の定員が 135 名となった。一般入試の入学者数 151 名は定員を 16 名上回っているが、これは AO 入試の入学者数が定員 30 名に対して 21 名にとどまり、その不足分を補うためであった。その後 AO 入試の認知度が上がり、以降は定員を充足することができている。一般入試での入学者が 2021 年度に減少しているが、これはコロナの影響で遠方の合格者が近くの私立大学に進学することを決めて辞退したものが多かったためである。入試倍率(定員／志願者)でみると 2018 年度は 3.2 倍、2019 年度は 2.8 倍、2020 年度は 2.9 倍、2021 年度は 3.1 倍、2022 年度は 2.7 倍と推移している。

表 1-2-1 学部入学者数

年度	一般	AO	外国人	計
2016	165		9	174
2017	151	21	8	180
2018	134	30	11	175
2019	138	30	10	178
2020	135	30	10	175
2021	130	30	7	167

年度	一般	総合型選抜	外国人	計
2022	135	30	8	173

2-2. 学部学生

学生数・卒業生数は 2016 年度から 2020 年度にかけてはそれ以前の水準に戻した。2021 年度に学生数が減少しているのは、前年に卒業者が増えたことおよび入学者数が少し減った(コロナの影響で入学辞退者が増えた)ことに帰因している。留年者数は減少しつつあるものの、休学者数については依然 30 名台が続いている。定員管理にもかかわる問題なので、学部生の学習生活面でのサポート体制の強化が必要となっている。

表 1-2-2 学部の学生数、休学者数、留年者数、卒業生数

年度	学生数	休学者数	留年者数	卒業生数
2016	776	33	69	181

2017	778	30	61	171
2018	772	24	62	171
2019	788	33	74	159
2020	780	34	69	184
2021	754	31	59	181

年度	学生数	休学者数	留年者数	卒業者数
2022	738	41	44	159

2-3. 学部研究生

研究生の総数は、20名台で推移していたものの、2016年度から2019年度にかけては減少傾向が見られた。2020年度、2021年度は再び増加しており、以前の水準に戻ってきている。日本人と留学生の比率については、近年留学生の割合が非常に高くなっている。学部研究生の総数は安定しているが、日本人研究生の数は少なく、外国人がほとんどである。これは、研究生であることが、留学生の大学院入試の条件となっているためである。2022年度の大学院研究生の数は大幅に増えたのはコロナが収束したことが要因と見られる。そのうち留学生が大半を占めるが、日本人の研究生が多かったことも注目される。研究生が、大学院入試までに実力を高めて合格できるよう、指導とサポートを徹底することが望ましい。

表 1-2-3 学部研究生数

年度	日本人	留学生	計
2016	2	17	19
2017	2	18	20
2018	1	16	17
2019	3	16	19
2020	1	27	28
2021	2	23	25

年度	日本人	留学生	計
2022	10	33	43

(高安 啓介、データ提供：教務係)